



プロジェクト名称

アジア学生とのサステナブル都市協働提案5

プロジェクト活動概要

アジア諸国では急速な都市化に伴い環境問題が年々深刻化しており、この解決は急務である。この諸問題に対しサステナブル(持続可能な)都市を形成するための方法を国内(東京都)、国外(タイ・バンコク)における調査を通じ、各国における過去の実績から、現地の学生と共にワークショップを開催し、意見交換を行うことで解決への道を模索・提案していく。カウンターパートはアジア工科大学院大学(タイ・バンコク)である。本プロジェクトは2006年に開始され、一年の立ち上げ期を経て、本年度で第五期目を迎える。都市インフラを水系、廃棄物系、交通系、エネルギー系に分け、各二年間で調査・情報交流をする。今期は廃棄物系の二年目(後期)にあたる。

活動状況報告 & 活動写真など【活動期間:2011年6月1日～9月30日】

- 6/24 新メンバー歓迎会、顔合わせの会
- 6/28 第一回定例ミーティング & 勉強会 (毎週火曜日)
- 8/4～6 プロジェクト合宿 (松下研究室にて)
- 8/7 芝浦工業大学オープンキャンパス大宮キャンパス出展
- 8/17,24 中央防波堤施設見学
- 8/18,9/1 東京スーパーエコタウン
- 9/13 松下研究室夏期ゼミにてプレゼンテーション
- 9/22 アジア工科大学院大学(タイ)にてミーティング





1. 昨年の成果と今年の方針

昨年のテーマは、「東京とバンコクの廃棄物問題の現状把握」でした。一年間をかけて東京の廃棄物処理の現状、廃棄物排出量の変遷、コンポストを用いた地域循環型社会モデル・山口県長井市のレインボープランなどの調査を行ないました。また施設見学では、先進的な廃棄物処理とリサイクルを行う、東京スーパーエコタウンを訪問し、高度な廃棄物処理技術や廃棄物マネジメントに関して学びました。

昨年9月にはタイ・バンコクに渡航し、アジア工科大学院大学とのワークショップと施設見学を行いました。ここでは東京とバンコクの廃棄物問題の情報交換と比較から、以下の共通見解を得ました。

- ①両都市共に、廃棄物の減量化と、最終処分場の逼迫は深刻な課題である
- ②東京とバンコクを比較すると、バンコクでは非効率、低精度の分別が行われている
- ③廃棄物や環境に対する意識が大きく異なり、バンコクでは金銭的な見返りが無ければリサイクルなどの活動は行われない
- ④分散型のリサイクル活動が両都市で求められており、マネジメントが重要である

昨年の成果を踏まえ今年度のテーマは、「分散型廃棄物処理とリサイクルに焦点を当てた二都市間比較」です。タイのように、廃棄物を焼却または破碎処理できない国において、地域や住民によるリサイクル活動の普及が最も現状に即していると考えたからです。また日本の成功事例として、集団回収について紹介し、バンコクで展開されるリサイクルバンク(学校を拠点としたリサイクル活動)との比較を行います。加えて、タイで応用可能な日本の技術やマネジメント手法をAITに提案します。





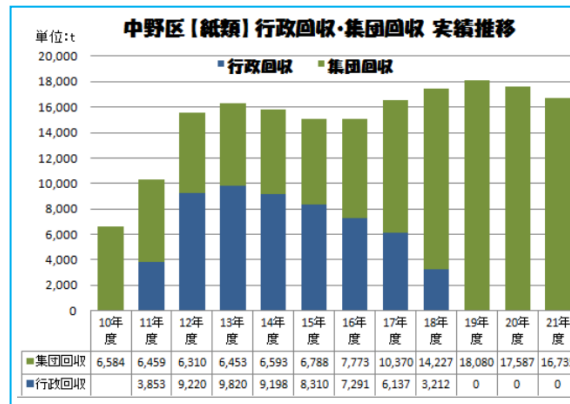
活動状況報告 & 活動写真など【活動期間:2011年6月1日～9月30日】

2. 国内調査

2.1 定例ミーティング & 勉強会

私たちは毎週一度集まり、ミーティングと勉強会を行ってきました。まずは新メンバーと共に昨年度得た知識とスキルの共有を行いました。東京とバンコクの廃棄物処理の現状とアジア工科大学 (AIT: Asian Institute of Technology) での発表内容を新メンバーと共に確認しました。その後、今年の焦点である、分散型廃棄物処理・リサイクルの日本の成功事例として集団回収について調査しました。

特に**東京ルールに従い集団回収に対して行政が介入し、回収量を飛躍的に向上させてモデル区を調査し、行政介入や行政回収から集団回収への移行の手法を調査し、今後杉並区役所に対してヒアリングを、実施します。杉並区は、1971年に「ごみ戦争」を経験していることから現在でも勢力的に集団回収を始めとするリサイクル活動を推進しています。このような市民活動と行政の協働による、分散型リサイクル活動の推進は、バンコクにおいても有効であると考え、調査しました。**



中野区紙類行政回収・集団回収 実績推移
出典:東京23区紙類回収実績 平成21年度

2.2 施設見学

本年度は東京都23区最終処分場である中央防波堤と、先進的な廃棄物処理とリサイクルを行う東京スーパーエコタウンを見学しました。東日本大震災の影響から、埋め立て処分場への立ち入りさえできませんでしたが、**廃棄物の飛散防止、害虫害獣の発生防止、悪臭防止、浸出水処理などの方法で、高度衛星処理された最終処分場の技術を見学出来ました。**東京エコタウンの見学ではRe-Tem (株)に代表される廃棄物マネジメントについて学びました。環境(ISO14001)、情報管理(ISO27001)、法令遵守(JISQ31000)、労働安全衛生(OHSASS18001)の廃棄物処理に纏わる4つの公的規約を一元管理するマネジメント手法を学びました。バンコクでも同様の問題、例えば**法定最低賃金で働く回収作業員が資源の抜き取りを行いその結果収集に悪影響を与えたり、周辺環境の悪化に繋がっています。**タイにおいても、このような考え方が必要であると考えました。





活動状況報告 & 活動写真など【活動期間:2011年6月1日～9月30日】

3. 松下研究室ゼミ合宿

松下教授と、松下研のみなさんのご好意で、軽井沢へのゼミ合宿にご同行させて頂きました。ゼミでは、アジアプロジェクトの紹介、昨年度の成果、今年度の取り組みについて発表しました。

今年度は、**タイに存在する資源ゴミのリサイクル、集団回収のシステムを活かしつつさらに活発にするシステムをアジア工科大学とのワークショップで提案**します。

そのために、今年度は渡航までの期間のほとんどは日本のリサイクルや集団回収の歴史、仕組みなどを調べるために資料集めや施設見学を行いました。その国に既に根付いている根本的な問題の解決に取り組むというのは一筋縄ではいかず、相手の国は歩んできた歴史も文化もそこに住む人々の価値観も、日本のそれとは全く違うと考えられるからです。今回のゼミ合宿では、タイだけでなく他の国の優れた事例を学ぶことや、タイにシステムを応用する際に**現地の人々との交流の大切さ、英語でのコミュニケーション力の大切さ**、といったアドバイスをいただきました。この経験を活かして、もっと海国に目を向けたり、人々とのコミュニケーションを大切にしたいと思いました。



今後の活動計画、目標、意気込みなど

1. 渡航にむけて

10月29日～11月7日のタイ渡航に向けてAITとの連絡を強化していきます。今年度は**事前ミーティングとして9月にAITに渡航**し(リーダーのみ)、情報交換の内容や施設見学施設を話し合いの上決定しました。今までの資料をメンバーと協力してまとめ上げ、英語でのプレゼンテーションとディスカッションに再度挑みます。

2. SD研究会にむけて

SD研究会は環境システム学科で行われる課外活動、研究交流会です。ここでは新メンバーのみでプレゼンを行い、知識の共有と情報発信の経験を養います。